

研究代表者	属学系・職名 外国語・外国文化学系・教授 氏 名 佐久間 康之															
研究課題	新学習指導要領の移行期間における小中接続を目指した英語熟達度の基礎調査：認知能力のダイバーシティに基づく横断的・縦断的研究 Assessing English Proficiency of Japanese Students for Improving Links Between Elementary and Junior High Schools in the New Courses of Study: A Longitudinal and Cross-sectional Study															
成果の概要	<p>【本研究の目的と成果の概要】</p> <p>本研究の申請当初の目的と研究資金の決定後の目的とは大きく異なる。理由は申請額の約 20% に値する決定額によるものである。当初の目的は、研究課題の通り小学生及び中学生の英語力及び認知能力の変遷を縦断的に調査することで、小・中学校における英語教育の効果を系統的に検証する予定であった。具体的には、小学生に対する英検 Jr. と中学 3 年生に対する英検（3 級以上）を英語力の指標とし、言語習得に関わる認知機能の発達状況に関わるデータと併せて考察することを計画していた。しかしながら、前述の限られた予算から、計画通りの実施は困難を極めたことにより、小中接続の中でも義務教育の最終年度にあたる中学 3 年生のみを対象として英語熟達度の測定を行った。</p> <p>研究成果の詳細は以下で述べるが、文部科学省の「第 2 期教育振興基本計画（平成 25～29 年度）」にて目標として掲げられている「50% の中学生が卒業時点で英語検定 3 級を取得する」について、今回実施した中学 3 年生は文部科学省の目標を大幅に到達していた。</p> <p>【調査の内容】</p> <p>上記の目的を達成するため、福島県内の小学校で高学年から外国語活動を年間 35 時間以上受けてきた A 中学校の 3 年生に在籍する全生徒（137 名）から英語検定 3 級以上受験する希望者を募り、120 名が受験を希望した。この中学校では既に英検 3 級を保持している生徒が一定数いたため、それらの生徒には既に取得している 1 つ上の級を受験させた。中にはさらに 1 つ上の級をダブル受験するものもいた。</p> <p>【調査の結果】</p> <p>表における、2 級から 3 級の合格者は A 中学校を準会場として受験した生徒の合格者数である。ダブル受験の生徒で複数の級を両方とも合格している場合、最高級のみを合格者数に表記している。なお、本会場受験者（ダブル受験を含む：準 1 級 3 名及び 2 級 1 名）は既に 3 級に合格しているため、3 級以上の合格者の総計に含めた。英検 3 級以上の取得率は約 65.7%（137 名中 90 名合格）であり、到達目標を大幅に上回っていることがわかった。</p> <p>表. 英検の合格者数</p> <table border="1" data-bbox="384 1648 1481 2065"> <thead> <tr> <th>級</th> <th>3 級以上の合格者数（ダブル受験者は最高レベルの級のみ）</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2 級</td> <td>8</td> <td></td> </tr> <tr> <td>準 2 級</td> <td>40</td> <td>2 級と準 2 級のダブル合格者 1 名を除外した人数</td> </tr> <tr> <td>3 級</td> <td>39</td> <td>準 2 級と 3 級のダブル合格者 13 名を除外した人数</td> </tr> <tr> <td>総計</td> <td>90(3)</td> <td>本会場受験者（英検 2 級以上）3 名を含む人数</td> </tr> </tbody> </table>	級	3 級以上の合格者数（ダブル受験者は最高レベルの級のみ）	備考	2 級	8		準 2 級	40	2 級と準 2 級のダブル合格者 1 名を除外した人数	3 級	39	準 2 級と 3 級のダブル合格者 13 名を除外した人数	総計	90(3)	本会場受験者（英検 2 級以上）3 名を含む人数
級	3 級以上の合格者数（ダブル受験者は最高レベルの級のみ）	備考														
2 級	8															
準 2 級	40	2 級と準 2 級のダブル合格者 1 名を除外した人数														
3 級	39	準 2 級と 3 級のダブル合格者 13 名を除外した人数														
総計	90(3)	本会場受験者（英検 2 級以上）3 名を含む人数														

成果の概要	<p>【本研究の意義と今後の課題】</p> <p>本研究の成果は、新しい英語教育制度を中長期的に見据えた基礎データとなることが期待される。今後は、全学年の児童および生徒を対象とした横断的・縦断的調査が課題である。</p>
-------	---